

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護管理・医療安全	3年後期	1	30	(看護師として33年) (看護師として17年)
科目のねらい				
<p>・看護をしくみとして捉え、人的資源、物的資源、財的資源を有効利用（維持・管理）するために必要な知識について学ぶ内容とした。さらに、社会人・専門職業人として自分自身のキャリアを積み重ねていくうえで必要な知識についても学ぶ。</p> <p>・基礎看護学概論や看護技術で学んだ看護の原理・原則をふまえて、医療事故を組織の問題と捉え、事故防止の考え方や看護業務における事故防止、業務領域をこえて共通する間違いと発生要因、医療安全とコミュニケーション、労働安全衛生上の事故防止、組織的な安全管理体制への取り組み等について学ぶ。</p>				
到達目標				
<p>1. 看護管理の基礎的知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解する。</p> <p>2. 医療安全に関する基礎的知識を身につけ、リスク感性を高める能力を養う。</p>				
DPとの関連				
<p>3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。</p> <p>◎5.心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。</p>				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	看護管理に含まれる要素とマネジメントが必要とされる場について述べるができる。	看護管理とマネジメント ・看護管理の基礎・歴史・マネジメントプロセス	講義	
2	看護職一人ひとりが看護業務を実践するために必要なマネジメントを理解できる	看護ケアのマネジメント ・看護職の責任と役割 ・チーム医療 ・医療安全・看護師基準・手順	講義	
3	看護を提供するシステムについて、看護部門の組織と提供体制について説明できる	看護サービスのマネジメント ・組織化 ・看護サービス提供の仕組み ・人材マネジメント	講義	
4	サービスの評価についてどのような視点があるか述べるができる	看護サービスのマネジメント ・環境・物・情報・リスクマネジメント ・看護サービスの質の評価	講義	
5	看護職として社会で仕事をしていくための、キャリア形成について述べるができる	看護職のキャリア開発 ・看護職とキャリア ・タイムマネジメント ・ストレスマネジメント	講義	
6	組織における人間関係、問題解決、意思決定などのマネジメントの要素を述べるができる	マネジメントに必要な知識と技術	講義	
7	質の高い看護を提供するための看護管理について考えを述べるができる	看護管理の実際 ・主任・師長・看護部長の役割	講義	
8	看護業務と法、職業倫理について述べるができる	医療・看護を取り巻く諸制度 ・看護職と専門性・看護職の職業倫理 ・教育制度・医療制度 看護政策	講義	
9	人間の行動特性を踏まえた医療安全の重要性が理解できる	医療安全とリスクマネジメント 医療事故とは	講義	
10	医療安全管理体制及び伝達について理解できる	組織の安全対策	講義	
11	ヒューマンエラーの特性と安全策について理解できる	個人の安全対策 ・ヒューマンエラーの特性と安全対策	講義	
12	インシデント・アクシデント発生の要因を分析し、防止対策を考えることができる	インシデント・アクシデントレポート 要因分析 防止対策	講義	
13	医療安全に対する意識の向上、行動特性の理解の重要性を理解する	事件事例から学ぶ ・行動特性	GW	
14	医療事故の起りやすい状況や観察能力の重要性について理解できる	事件事例から学ぶ ・事故の起りやすい状況 ・観察力の重要性	GW	
15	危険予知トレーニングの必要性について理解できる	事件事例から学ぶ ・危険予知トレーニングの必要性	講義	

10	医療安全管理、安全管理システム及び事故分析方法について理解できる	医療安全管理 ・安全管理システム ・自己分析方法	GW	
受講上の注意 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。		関連科目 看護管理、看護の統合と実践基礎看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 看護管理		
事前および事後学習 関連科目の既習内容については学習しておく。				
成績評価の方法 提出物・課題レポート100%				
教科書・参考書・その他の教材 看護管理【医学書院】 医療安全【医学書院】				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
チーム医療論	2年後期	1	15	(看護師として 年)
科目のねらい 保健医療福祉における専門職の種類と役割を理解し、チーム医療の考え方と実際について学ぶ。また、チーム医療における看護職の役割と責任について考える。				
到達目標 チーム医療における多職種連携・協働のための基礎的知識を養う。				
DPとの関連 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	チーム医療の歴史及び概念、意義について理解できる	チーム医療とは チーム医療の歴史 チーム医療の意義	講義	
2	多職種の役割と機能が理解できる	多職種における法制度上の役割・機能	講義	
3	多職種の専門職者の活動及び協働の実際を知る	多職種の専門職者から活動及び協働の実際を学ぶ (各1回で) ・薬剤師 ・栄養士 ・臨床検査技師 ・社会福祉士 ・診療放射線技師 など	講義	
4			講義	
5			講義	
6	チーム医療におけるコミュニケーション	チーム医療におけるコミュニケーション ・コミュニケーションの方向性 ・フォーマルコミュニケーションとインフォーマルコミュニケーション	講義	
7	チーム医療における看護職の役割・機能を考える	チーム医療における看護職の役割・機能及び限界 ケースカンファレンス	GW	
8				
受講上の注意 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。			関連科目 保健医療論・基礎看護学概論・看護管理・医療安全	
事前および事後学習 関連科目の既習内容については学習しておく。				
成績評価の方法 平常点20% レポート80%				
教科書・参考書・その他の教材 看護管理【医学書院】				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護研究	3年前期	1	20	(大学教員として10年) (大学教員として 年)
科目のねらい 看護研究に関する基礎知識や看護研究における倫理について理解する。 この科目では事例研究を行い、自己の看護実践によってもたらされた患者の反応を客観的・理論的に捉え、患者の反応の持つ意味などについて文献検討を通して深めていくことにつなげる。これら一連の過程を通して研究の意義や方法を理解し、問題解決における基礎的能力と研究的態度を養うとともに、自己の看護観をさらに深められるようにす				
到達目標 1. 看護における研究の意義、方法及びプロセスについて学び、看護研究における倫理について理解する。				
DPとの関連 ◎5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	看護研究の意義や歴史的背景について述べるができる	看護研究とは何か 看護研究意義 看護研究の歴史 看護研究の倫理的配慮	講義	
2	研究計画書作成のプロセスと注意点を述べるができる	研究計画作成のプロセスと注意点	講義	
3	文献検索の方法が理解できる	文献検索の基礎知識	講義	
4	質的研究の概要が理解できる	質的研究（グランデット・セオリー、事例研究等）	講義	
5	量的研究の概要が理解できる	量的研究（調査研究の方法、まとめ方）	講義	
6	研究論文の構成要素について述べるができる	研究論文の構成要素（論文の組み立て、要約、抄録等）	講義	
7	論文を読んでクリティークできる	クリティカルシンキングとクリティーク	講義	
8		クリティカルシンキングとクリティーク	講義	
9	文献をもとにケーススタディレポートを作成できる	文献検索 ケーススタディ計画書作成	講義	
10			講義	
受講上の注意 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。 ・ケーススタディレポートは計画的に取り組むこと。			関連科目 基礎看護学概論 各看護学	
事前および事後学習 事前にシラバスの学習内容について教科書を読んで授業を受けること				
成績評価の方法 課題レポート（ケーススタディ計画書）100%				
教科書・参考書・その他の教材 看護研究【医学書院】 看護学生のためのケーススタディ【メヂカルフレンド社】				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
災害看護と国際協力	3年後期	1	15	(看護師として20年) (看護師として24年) (理学療法士として11年)
科目のねらい 災害直後からの支援に必要な看護の基礎知識や支援の実際について学ぶ。 また、感染症や災害、貧困、慢性疾患など世界の健康問題の状況や国際協力のしくみについて学ぶ。				
到達目標 1. 災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解する。 2. 外国での看護活動の実際について理解する。 3. 国際社会での諸外国との協力について考えることができる。				
DPとの関連 3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。 ◎5.心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	災害及び災害看護に関する基礎的知識が理解できる	災害及び災害看護に関する歴史 災害の定義及び種類と疾病構造 災害に関連した制度 災害時の情報伝達の仕組み	講義	
2	災害時における看護の役割と活動内容が理解できる	災害各期における活動 避難所における活動	講義	
3	災害時に必要な看護技術について述べるができる 災害サイクルの各段階における保健・衛生管理・感染予防について理解できる	I-トリアージ II-応急処置・搬送等 災害各期における活動 災害慢性期、復興期に必要な技術	講義	
4	病院における防災対策とリスクマネジメントについて理解できる 被災者・援助者の心理的特徴と援助について理解できる	避難所、救護所等での活動 病院における防災対策とリスクマネジメント 被災者・援助者の心理的特徴 被災者・援助者の心理面への援助 災害看護と倫理	講義	
5	外国での看護活動について理解できる	外国での看護活動の実際	講義	
6			講義	
7	国際救援活動の実際について理解できる	国際救援活動の実際 ・医療チームの結成・職種間の連携方法 ・ネットワークの活用	講義	
8			講義	
受講上の注意 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。			関連科目 基礎看護学概論	
事前および事後学習 事前にシラバスの学習内容について教科書を読んで授業を受けること				
成績評価の方法 筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材 災害看護学・国際看護学【医学書院】 看護学概論【医学書院】				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護技術の統合	3年後期	1	30	(看護師として9年6か月)
科目のねらい 既習の知識・技術・態度を統合し、臨床に近い疑似環境で、複数患者への優先順位を考えた援助の提供や、緊急・突発事象の発生時に適切な判断・対応を学び、看護実践能力の向上を図る				
到達目標 1. 既習の知識・技術・態度の統合と総合的な判断について学び、対象の状態に応じた看護を実践できる。				
DPとの関連 3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。 ◎5.心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	科目の位置づけ、学習目標、進め方について理解できる	科目の位置づけ、学習目標、進め方	個人ワーク	
2	対象の状態を踏まえて、看護の必要性を判断できる	患者の状態アセスメント	個人ワーク	
3	対象の状態に応じて同意や納得が得られるような説明ができる	患者の発達段階に応じた説明	個人ワーク GW	
4		患者の同意や納得が得られる説明		
5	2人の患者の状態から援助の緊急性、重要性を考慮し、援助の優先度が判断できる	2人の患者の状態から優先度を判断し、行動計画立案(援助の優先度、順序性、時間管理等)	個人ワーク GW	
6				
7				
8	患者に必要な看護技術が安全・安楽・自立・個性をふまえて実施できる	患者に必要な看護技術の実践	演習	
9				
10	2人の患者の優先度を考慮し、突発的な事象に対応できる	2人の患者の優先度を考慮した突発的な事象への対応	シミュレーション	
11				
12				
13	看護実践を振り返り、自己の課題について述べるができる	実践演習の振り返り	デブリーフィング	
14				
15	自己の学び・課題をふまえて自己の目指す看護師像について述べるができる	まとめ：私の目指す看護職	レポート	
受講上の注意 ・能動的学習形態である ・積極的な姿勢で学習に取り組む			関連科目 基礎看護学概論 看護管理 医療安全	
事前および事後学習 既習学習の内容についてはすべて事前に学習し実習する。				
成績評価の方法 平常点10% 提出物・レポート90%				
教科書・参考書・その他の教材 看護学概論【医学書院】 看護管理【医学書院】 医療安全【医学書院】				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
統合実習 (多重課題・連携協働・看護管理)	3年後期	2	90	(看護師として9年6か月)
重点目標 多職種と連携・協働し、複数の対象者の様々な状況に応じた看護を実践する。				
学習活動 1. 自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習準備する。 2. 実習の様々な体験から、医療チームにおける看護師の役割と機能について述べる。 3. 医療チームにおける看護部、看護師長、看護師、多職種との連携・協働について述べる。 4. 看護師や他職種との調整・情報共有し、医療チームの一員として複数の対象者のケアに参加する。 5. 多重課題の中で複数の対象の看護の優先順位を考え実践する。 6. 実習の学びを積み重ねて、看護師として倫理観に基づいて看護実践する。				
DPとの関連 4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。 ◎5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1日目	病院、病棟オリエンテーション、受け持ち患者情報収集	臨地実習	
2	2日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	
3	3日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	
4	4日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	
5	5日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践 ※2週目にリーダー実習・看護管理について計画する (2～3人ずつ)	臨地実習	
6	6日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	
7	7日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	
8	8日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	
9	9日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	
10	10日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	
11	11日目 学内実習	学びの共有 GW	学内実習	
受講上の注意 ・能動的学習形態である ・積極的な姿勢で学習に取り組む			関連科目 基礎看護学概論 看護管理 医療安全	
事前および事後学習 既習学習の内容についてはすべて事前に学習し実習する。				
成績評価の方法 実習内容に基づく評価表を用いて評価する				
教科書・参考書・その他の教材 看護学概論【医学書院】 看護管理【医学書院】 医療安全【医学書院】				